



最近の動き

当委員会では、会館建設に向けた検討を進めています。いよいよ予定地にある電柱、地下埋設電線の移設工事が 11 月から始まり、今年度中に予定地整備が完了する見込みです。

会館建設は、毎年申請している市からの補助金交付を待って着手することになります。事前の予定地整備が今年度中に済むことから、来年度こそ着工できるのではと期待しています。

会館の目的

会館は地域の人が集まり活動することで、お互いを知ること、互いに知識・経験を高めていくことができ、今までよりも地域が活性化することを目指しています。合わせてこれまで無かった事務所や防災の拠点としても機能していくことが期待されます。これまでの検討経過等は、過去の総会資料や「いずみに集う」のバックナンバーを自治会ホームページでご確認ください。

トータルコストを抑える

会館に関わるコストは、大きく分けて建設時の工事や資材にかかるイニシャルコストと、建設後の維持・補修等にかかるランニングコストがあります。会館建設にあたって、丈夫で長持ちする材料を用いて修繕費用を削減することで、トータルコスト(イニシャルコスト + ランニングコスト)を低く抑えることを目指しています。断熱性能を上げることもトータルコストを抑える上でとても重要な要素と考えています。

可能性の模索

雨水利用、太陽光(熱・電気)、断熱性能向上など、何をどこまで導入できるか模索しています。様々な技術やアイデアを組み合わせることで日々の暮らしやすさや防災機能が高まると期待しています。

複数のシナリオを検討

理想通りすべての設備が整備できれば良いのですが、この数年で材料費をはじめ、あらゆる費用が高騰しています。これまで自治会が積み立ててきた独自資金と市の補助金と合わせた総事業費は 3,100 万円を超えると見込まれています。資材の一部はコスト面から制限される可能性も出てくるかもしれませんが、いくつかの案を検討しながらより良い方法を探っていきます。

運営の省力化

建設後に手間がかからないように工夫することはとても大切なテーマです。修繕工事は将来必ず行いますが、修繕間隔が長ければそれだけ手間もコストもかかりません。また、従来多くの集会所では、利用の際に鍵の開け閉めに役員が立ち会ったり、鍵の受け渡しが行われてきましたが、それだけ人手がかかっていました。Web 上の予約システムと電子ロックを組み合わせれば、省力化が可能でしょう。維持管理の手間を省きながら、皆が集まって活動する時間をできるだけ増やすことを目指していきたいです。皆様からのアイデアをお待ちしています。